

内面コーティングの耐用年数に関するワーキンググループ経過報告

●平成22年7月30日に第2回WGを開催した。

- 議題 (1) 浸漬試験進捗状況の確認
(2) 実タンク塗膜の劣化状況調査計画
(3) コーティングが施工されていたタンクの内面腐食

(1)温度勾配浸漬試験

6月2日～9月10日の期間(100日)、温度勾配浸漬試験を実施し、試験結果をとりまとめ中。

(2)実タンク塗膜の劣化状況の現地調査

ガラスフレークコーティングが施工された実タンクのうち膜厚が400 μ m程度でかつ20年程度使用されたもののコーティングの経年劣化状況を調査し、耐用年数を検討するため以下のタンクの現地調査を実施した。

①タンクA(8月11日～12日実施)

容量:6.7万キロリットル、内径:67m

内容物:原油

コーティング使用期間:14年

②タンクB(9月27日～28日実施)

容量:2.3万キロリットル、内径:38.7m

内容物:原油

コーティング使用期間:22年

③タンクC(9月14日～15日実施)※9月16日にWG委員による現地調査状況の確認実施。

容量:1.4万キロリットル、内径:34.8m

内容物:軽油

コーティング使用期間:24年

調査結果とりまとめ中

(3)コーティングが施工して施工されていたタンクの内面腐食

WGの審議結果を第3回本検討会に報告した。

この他に、20年以上使用しているガラスフレークコーティングが施工されているタンクの開放検査時におけるコーティングの補修履歴等のデータを収集分析している。

次回WGは11月5日(金)に開催予定